

日高PTA便り

発行所
日川高校PTA
事務局
山梨市一町田中



三年間のPTA活動
PTA会長 山下 剛

卒業生の保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。私事ではありますが、今年度卒業する息子から私と父、祖父と四代続けて日川高校にお世話になりました。そんな折に会長職を務めさせて頂いたことに感謝申し上げます。

思えば三年前の少し肌寒い平成三十一年四月に、夢や希望にあふれた姿で子供たちが入学しました。翌月の五月から令和元年となりました。私が高校一年生の時に昭和から平成になった年なので、とても感慨深いものがありました。

皆様もご存じと思いますが、日川高校のPTA理事は各地区ごとに選出され、地区の輪番で役員が決定されます。入学前に内定し入学後の総会で承認されますが、そこからPTA活動が始まりました。役員会・理事会・年次理事会・年次部会・総会等、

多くの会議が開催され、その後には懇親会があり、先生方や役員さんと楽しい時間を過ごさせて頂きました。

同年の九月末の秋、PTA活動最大のイベント強歩大会への協力活動がありました。携帯電話の電波も入らない真つ暗な寒い山の中で、一晩中子供たちに先生方や会員さんと一緒に、声援を掛けながら応援させて頂いた経験が一番の思い出です。

それから年が明けた翌年早々、人類史上まれにみる世界的な感染症が拡大し、ほとんどの活動が出来ない状況になりました。その後の二年間、現在に至るまで、予定されていた学校行事やPTA活動は様式の変更や縮小、もしくは中止を余儀なくされている状況が続いています。

特に子供たちは修学旅行、学校行事、部活動等、本来であれば友人との思い出になるはずだったイベントなど、楽しみに



「困難な時代を生きる」
校長 萩原章司

卒業生の保護者の皆様、ご息の卒業に心よりお祝い申し上げます。また、平素より本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

高校生活への期待を胸に校門をくぐってから3年の月日が経過しました。ご子息、保護者の皆様にとりまして、この3年間ほどのような時間であったでしょう。入学してまもなく元号が変わりました。皇居前で歴史が変わる瞬間を待つ人であればいた場面がテレビで映し出されていたのが懐かしく感じます。30年にわたる平成の時代が終わり、新しい時代に大きな期待を寄せての幕開けとなりました。しかし、その翌年1月に国内ではじめて新型コロナウイルス感染症が確認され、私たちを取り巻く環境が一変しました。3月には感染防止のための全国一

がると思います。自信をもってこれからも何事にも挑戦して欲しいと思います。

本年度一年間、会員・役員の皆様には大変お世話になりました。子供達、保護者、学校の架け橋となるPTA活動を目指し、皆様のご支援ご協力をいただきましたこと心より感謝申し上げます。

斉の臨時休校となり、長い期間にわたり登校もままならない事態となりました。目に見えないコロナウイルスへの恐怖、先行きが見えないことの不安といらだちを感じながらの生活が続きました。学校では、学習の機会を確保すること、生徒の状況を把握することに取り組みため、はじめてYouTubeを使った動画配信、Classiの活用を試みましたが5月末に学校は再開しますがしばらく分散登校などが続き、6月半ばになって全員が机を並べて学習できるようになりました。総合体育大会、インターハイが中止となり、総合文化祭がリモートでの開催になるなど、生徒の成果の発表の場が失われました。高校生活の中で大きな比重を占める修学旅行が実施できなかつたのは本当に残念でした。

さて、世界を震撼させている新型コロナウイルスは、社会の課題を浮き彫りにする一方で、ICT技術を活用したりリモートワークなど、新しい働き方を生み出す契機となりました。リモート会議も一般化しつつあり、コロナ禍が終息した後も継続することが予想されます。コミュニケーションの一つの選択肢として、上手に活用することにより付加価値を生み出すことが期待できます。対面およびリモートのコミュニケーションとしての利点を生かし、また補完しあうことで人とのつながりが円滑にできればと思います。

世界では、深刻な気候変動への解決に向けて、温室効果ガス排出を削減する取り組みが始まっています。また、デジタル技術の発達による利便性の向上する一方で、社会的リスクが高まっています。国際情勢についても混迷を深めており注視する必要があります。国内外における課題は枚挙に暇がありません。より良い生活を求める中で犠牲にしていることがないか、バランスを考え対処しなければならぬ難しい時代に入っています。課題解決には、多様な人々と知恵を出し、協働して取り組むことが必要な時代です。

困難は変革の原動力であり、より良い社会の力になると言われています。本校を巣立つ卒業生が困難な時代を一生懸命に生き、未来を切り拓いてくれることを期待しております。

保護者の皆様の御協力に感謝申し上げます。卒業生に幸多からんことをお祈りします。

していた事がなくなり、とても残念であったと思います。しかし、学校生活においてもご家庭でも、何かに向かって自分たちが準備したり学習したり練習してきたことは、紛れもない事実であり無駄なもの一つもありません。子供たちが一生懸命取り組む頑張ってきたことは、必ずこの先の将来のどこかにつなが

謝辞

三年次主任 秋山 岳巨

卒業生の保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。お子様が立派な成長を遂げ、ここに御卒業を迎えられましたこと、お喜びも一入のことと拝察いたします。心よりお祝い申し上げますとともに、これまでいただいた御支援、御協力に対し、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

この3年間を思い起こすと、どうしてもコロナの影響下のネガティブな印象が強くなってしまいます。多くの機会が失われ、数えきれないほどの無念や悔しさもありました。しかし本校の生徒たちは、ネガティブにネガティブを重ねても何も生まれないうこと、自分が今置かれている環境を最大限に充実させ楽しむこと、この2点に基づいた考え方や生き方で、コロナに負けず、かけがえのない高校生活を充実したものとしてくれました。例年と比べ学校や社会で過ごす時間が極端に少なく、各御家庭に多くの御協力をお願いする中でこの成果は、ひとえに各御家庭のお力添えの賜物と、重ねて感謝申し上げます。残念ながらライブ配信を通じた形になってしまいますが、この3年間のお子様の成長を本日の卒業式で

覧いただきたいと考えております。

先日、司馬遼太郎の「二十一世紀に生きる君たちへ」というエッセイを十数年ぶりに読み返してみました。この、自身が21世紀まで生きられないと考えた著者から次世代へ向けたメッセージは、次のように結ばれています。

「君たちはつねに晴れあがった空のように、高々とした心を持たなければならぬ。同時に、ずっしりとたくましい足どりで、大地を踏みしめつつ歩かねばならない。…書き終わって、君たちの未来が、真夏の太陽のようにかがやいているように感じた。」

実はこのエッセイは、1989年に小学5・6年生の教科書用に書き下ろされたものです。で、保護者の方の中にはリアルタイムで読んだ方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そう、このメッセージは今の若者向けというよりも保護者の皆様や我々の世代に向けて書かれたものなのです。本日、卒業生たちの輝かしい姿から力をもらった21世紀を生きている皆様の未来が、今後も真夏の太陽のようなかがやきとともにあることをお祈り申し上げます。3年間、ありがとうございました。

果てなき 幸せ物語を紡ぐ

PTA副会長 萩原 達矢

日川高校を巣立ちゆく皆さん、保護者の皆様ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

当たり前の生活や学習環境などコロナ禍により大きく変化した3年間でした。しかし大きな節目を迎えた今、皆さんは置かれた状況に悲観せず、むしろ嬉々として仲間たちと自らの世界を作り上げた日々を懐かしみ、春からの新生活への期待で胸を膨らませていることでしょう。

民法改正により4月から皆さんは、名実ともに大人の仲間入りを致します。社会から大人として見られ、責任も付いて回るようになりませんが、それを重荷と捉えずに、自由を楽しみ目標を持ち、人生をめいっぱい謳歌してください。この先の長い人生には、岐路は何度でも訪れます。また幾度でもチャンスがあります。何もしなければ何も起こりませんが、行動すれば必ず何かが起こります。失敗を恐れず他者からの評価に怯まず我が道を行く。価値観も多様化し先が見えない難しい時代だからこそ、自身の行く先を心豊かにしっかりと歩みを進めてください。

保護者の皆様におかれましては、大切なお子様のご卒業、誠にありがとうございます。一人の大人として足跡を刻んでいく我が子に、今後も変わらぬ温かい眼差しを注いでまいります。先生方におかれましては、温かく情熱あふれるご指導を賜り、誠にありがとうございます。これから心ふるさととして彼ら彼女らの道行きをお見守りいただきますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。日川高校で過ごした掛け替えない学びと思いい出と友情を携えながら、君たち自身の果てなき幸せ物語を作ってください。私たちは皆さんのことを、ずっと応援しています。ご卒業、誠におめでとうございます。

ご挨拶

PTA副会長 磯野 知子

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。今年度も、昨年より猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響により、学校生活や行事、部活動など様々な活動が制限されたり、中止になったりと我慢を強いられてしまいました。通

常の生活が送られる様になるかと思われた矢先に、新たな変異株が流行りだし、いまだ終息の兆しが見えてきません。このような先行き不透明な中、立ち止まる事なく、自分の道を探さなければならぬ卒業生の皆さんにとっては不安な日々であったのではないのでしょうか。学校に通う事、授業を受ける事、和気あいあいと昼食を食べる事、部活動をする事、試合で仲間に応援してもらう事、修学旅行に行けることなどの当たり前と思っていた事が、どんなに尊く幸せな事かを痛感し、日々感謝の気持ち忘れず過ごしてほしいです。思い描いていた高校生活を送れず、悔しかったでしょうが、きつと今後の人生の糧となってくれると思います。

PTA活動の方も、二年に渡り強歩大会も中止になってしまった為、一年の時に携わらせていただけた事が今となっては良い経験だったと思います。ゴールを目指して苦しくても諦めず頑張る姿に感動させてもらい、先生方やOBの方々、保護者の皆様の献身的な姿は、伝統ある日川高校ならではの素晴らしい行事だと実感しました。最後に、校長先生をはじめ、教職員の皆様、コロナ禍で対応が難しい中、生徒達を守り温かくご指導いただき、本当にありがとうございました。PTA活動にご協力いただきました保護者の皆様にも心より感謝申し上げます。